

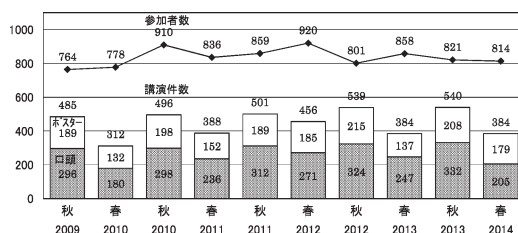
## 2014年度春季大会の報告

2014年度春季大会は、横浜市開港記念会館（横浜市中区本町1-6）・横浜情報文化センター（横浜市中区日本大通11）を会場として2014年5月21日（水）～24日（土）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は814名で、これまでの春季大会と同程度であった（第1図）。

2日目午後には、開港記念会館講堂において総会が開かれ、阿部彩子氏と鈴木健太郎氏に日本気象学会賞が、時岡達志氏と中島映至氏に藤原賞が、山岸米二郎氏に岸保賞がそれぞれ授与された。総会に続いて受賞者による記念講演が行われた。3日目午後には、同会場において公開シンポジウム「気象学における科学コミュニケーションの在り方」が開催され、4件の基調講演と参加者による討論が行われた。シンポジウムについては、初めての試みとしてネット中継を実施し、リアルタイムでの視聴者は約100名にも上った。

大会期間中は、ポスターまたは口頭発表による一般講演、並びに特定のテーマに基づいてコンペーターが編成する3件の専門分科会が行われた。一般講演の発表件数は341件（内訳はポスターが179件、口頭発表が162件）、分科会は43件で計384件であった。

会期中およびその前日には、教育と普及委員会によ



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数（口頭、ポスター）。

る公開気象講演会「局地風の世界」を含め、個別のテーマによる5件の講演会や研究連絡会も開かれた。

今大会の開催に当り、28の企業・団体からご出展・ご協賛を、横浜市からはご後援を頂きました。厚く御礼申し上げます。

また、海洋研究開発機構、防衛大学校、横浜国立大学、気象研究所の皆様には大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂くとともに、ボランティアとして大会運営にご協力頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2014年6月 講演企画委員会